

■「心の問題から身体に症状が出ていたことが分かる急性のケース」

日本ホメオパシーセンター愛知弥富

JPHMA 認定ホメオパス No.0912

ZEN メソッド修得認定 No.0304

JPHF 認定インナーチャイルドセラピスト No.0152

加藤 育代(かとう いくよ)

【クライアント】 20歳 女性

【主 訴】 左股関節の痛みで上手く歩けない、膝にも痛み有り、転びやすい。
痛みの原因がわからない。

【タイムライン (今回のケースに関するところのみ)】

2018年 8月 22日(水) 左の脚の付け根に痛みを感じ始める
～ 週末 日々マッサージしてもらうが、効果はなく痛みは増すのみ。
(左臀部下部から大腿にかけマッサージによる内出血跡多数)
25日(土) 左足首くじく(履いていたサンダルも壊れる)
27日(月) ホメオパシー相談; 今回脚を痛めた記憶もなく、
何故痛くなり歩けないのか分からない。

【外見・性格】

- ・楽しいことが大好きな大学3年生。
- ・根はまじめで勉強は結果を出す。
- ・さみしがり屋だが、大学のため親元を離れ一人暮らしをしている。

【1回目 2018/8/26】

・物理的な原因が思い当たらず、マッサージも効果がなかったことから、心的要因を疑い質問を投げかけてみた。

ホメオパス : 「股関節が動かないというのは、象徴的に“今いるところから動きたくない”とか、“状況を変えたくない”という精神状態の表れでもあるんだけど、現在やらないといけなければやりたくないことってないかな？」

クライアント : (はっとした表情で)

「実は、夏休み前に付き合い合っていた彼と別れて、彼の部屋に置きっぱなしになっている私物を来週取りに行かないといけなくて...連絡するのも怖くて。」

ホメオパス : 「別れたのは悲しい？」

クライアント : 「自分の中ではもう無理ってなって、別れようって言って、やっと別れられた形だから、それはない。あれ、何か痛みが無くなってきた。」

ホメオパス : 「何がそんなにいやなのかな？ さっさと荷物もらって終われば楽じゃないの？」

クライアント : 「顔を見るのも嫌だし、連絡を取りたくない。(彼の部屋の最寄り)駅名を聞くのも無理。宅急便で送ってって言ったんだけど、出来ないって言われて...お盆に取りに行こうと

思ったら、相手が帰省するから延期して、8月の最終週に取りに行くってなっていたから、丁度、水曜日頃からそろそろ連絡しないとイケないなあって。」

ホメオパス：「じゃ、心は不安と恐怖って感じかな？」

クライアント：「そうです。思い出すだけで鳥肌って感じで、憂鬱で、逃げたくなる。」

その後、

留守の間に取りに行くとラインで連絡を取り、合鍵はポストに入れることで合意。

砂糖粒① Nat-m. 30C、200C ※手持ちのキットから、痛みが取れるまで

砂糖粒② Acon. 30C、200C (晩 200C を、朝 30C、水筒にも 30C を)

※Nat-m./塩化ナトリウム、Acon./ヨウシュトリカブト

* 選択の根拠

【TBR】：上記の症状に対し TBR (The Bonnighausen repertory の略) を使って検索

- ① 276 下肢一般関節(寛骨臼大腿)
- ② 904 体の側面-左側
- ③ 1007 重い感覚-内側部分の
- ④ 1275 関節全般-麻痺性の(不具にする、足を不自由にする)痛み
- ⑤ 1232 骨(および骨膜)全般-麻痺性の(不具にする、足を不自由にする)痛み
- ⑥ 1308 筋肉全般-麻痺性の(不具にする、足を不自由にする)痛み
- ⑦ 1747 <不安(恐れおよび恐怖)から
- ⑧ 797 精神-憂うつ

順位・レメディ名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	度数合計
1. Nat-m.	3	1	3	2	1	1	2	4	17
2. Cocc.	3	1	2	2	3	2	1	2	16
3. Nux-v.	2	2	4	2	2		3	2	17
4. Puls.	2	1	2	3	2		4	3	17

砂糖粒① Nat-m. : TBR。現在は恐怖が先に立っているが、やはり根底には悲しみがあるのかもしれない、クライアントの症状にもよく合っていることから選択。

砂糖粒② Acon. ; 元彼と接触すること、声を聞くことに対し、付き合っていた時のことも忘れたいほどの強い恐怖感を持っていることから、精神状態の⑦、⑧のみで TBR すると Acon. と Ign. の二つが満点でトップ。
以前眠れないときも Acon. が良かったクライアントだったので、今回の痛みの大元である感情をケアする目的で選択。

【その後の経過】

- ・帰りには、スキップしているのではないかとというくらい軽やかな足取りになっていた。
- ・翌週、何事もなく元彼の留守中に荷物を取りに行くことが出来、気持ちもすっかり楽になったとのこと。
- ・不思議なことに、あれほど嫌悪感を抱いていた路線、駅名にも何も感じなくなった。
- ・嘘のように股関節の痛みは消えてしまった。レメディも翌日まででその後は取っていないとのこと。

【まとめ】

- ・股関節の痛みということで相談を受けましたが、いかに気が進まないこと、やらなければならないのにやりたくない！ という気持ちが身体に影響を及ぼしているかが、顕著に分かるケースでした。
- ・心と身体は繋がっていると分かってはいても、今回のように痛みを感じ始めたタイミングも原因と合致、そして**本人の気づきがあった瞬間から、痛みが和らいでいった**のには驚きました。

カテゴリー：[メンタルヘルス、インナーチャイルド] [急性症状]